



YUNA KAMINAMI
神波 由那
Lyric Book



新世界作詞集

IBARA
～異薔薇～



目次

Beyond separation	1
shines on me	2
TOGETHER	4
近すぎて、そして	5
君がいなければ	6
I'll take you, again	8
晩秋岬	9
Signpost	10
Shadow of gold	12
Ride out	13
Ultimate	14
陽の高く射す方へ	16
オールライト	17
この愛を離さないで	18
Dreaming	19
棘と涙	20
想いによせて	21
Thereason ～存在理由～	22
郷愁	24
Feathers	25
伝わらないラブ・ソング	26
思い出の夜	27
bye bye to our lives	28
IF	29
Lie to me	30
THROUGH THE NIGHT	31
Rainy train	33
麗しきなり戦	34
The Call of the Winds	35
in summer rain	36
永遠のサヨナラ	38

Beyond separation

拗れて見えない迷路
僕の心はボロボロ

僕の目の前に刺される槍は
近づくなというしるしだよ

それでも身体に打ち込まれる銃弾に
倒れそうになるばかりで
ヒトって面倒くさいって思ってしまったんだ

ye 出会いがあれば別れも来る
例え恋人でも友達でも家族でも
出会いが別れのスタートなら
その先はそれぞれを行けばいいだけなんだ

ye 愛情の先には僕らは考える
そう、それは Beyond separation

いつだって語り合い愛された
共通の趣味や愛情をかけて育てられた
でも僕の全てをさらけ出すのは
少しだけ怖かった気がしていたんだ

身の上を晒さなかったせい
相手が本気で付き合ってくれなかったから
わからないけど、結局本当には通じ合えなかったんだ

ye 本当の友情ってなんだろうか
同じ道に行くことが愛情なのだろうか
それに背くことしかできないなら
僕は多分ひとりで行先を考えるだろう

ye いつかは終わらせないといけない

Beyond separation

僕が真剣に向き合える時に

眩しすぎる空に誓うことって出来るのだろうか

それは Eternal...

ye 誰だって出会いと別れがあるだろう

その先に何かを見つめることが必要なだろう

だから僕はいつも考えている

この世のそれぞれの道を

いつまでも此処に止まれないから

僕は思う

いつも Beyond separation...

shines on me

扉の向こうの涙が見える？

もう戻らないはずの愛が今蘇る

私の心は冷たく魂を持たずまま

新月に隠れて 姿を消したけど

起こして（起きられない）

見つけて（誰か止めて）

闇の中で私を呼んで

悲しみの後では

何も要らないよ

ただあなたがいればいい

今になって分かること
どうしても離せない想いが
真実となりしみ込んでゆく
あなたがただ shines on me

目を開けて（そむけないで）
さあ見つめて（そらさないで）
The reunion in me
抱きしめ合って

いつかのさよなら
いつかのごめんね
そんな言葉はなくてもいい

すこしだけの shine on me
（もう嘘もない 偽りも何もない）
真実だけの shine on me

凍っていた指が暖かさに溶けない
あなたなしでの愛では
息絶える前に逢いたくて

唇を重ねた時に
終わりがある愛を知った
心の鎖を引きちぎった
その手で描いたいつかの deadline
離れた時にどうしてたかとか
もう今更聞かないでくれよ

夢の中の shine on me...

起こして（起きられない）
見つけて（誰か止めて）
闇の中で私を呼んで

いいことも
悪いことも
全て夢だと思えばいい

残酷な snine on me

記憶を消し去れば
楽になれるのだろうか...
冷たくなる前に

TOGETHER

一緒に歌おう、人生を泣いて笑って
一緒に歩こう、行けるところまで行こう

随分失ってしまった 取るに足らない争いのために
そしてその時何故私が 私でなかったのか考えた

どうせ不器用にしか生きられないのは分かっているけど
踏み外したり脱線しなければ、うまくいったと思うことがあるよ

一緒にいつまでも 親愛なる友たちよ
限りない可能性に向かい
共に歌い、笑ったりしよう

せきたてる大人達に反発して 勝手に過ごした
何をしてもやる気にならず 何をしたらいいのかも分からない
このまま年を取るのは余りにもつまらない気がする
Look at the day, Looking for that What to do
少し時間はかかるかも知れない

一緒にいつまでも 心の友たちよ
たとえ不満や悲しみが来ても
共に悩み、苦しみを分かち合おう

時代は進んでいく
出会いと別れを繰り返す
その中で変わらないものが、ひとつくらいあってもいいだろう

今までやったことなんか、今更どうにもならない
Thinking about tommorow, It's ll soon be here
このままじゃとても死ぬに死ねない

皆がそれぞれに目指す道は違う、それでもずっとそう
変わらない友情があってもいい

一緒にこれからも 親愛なる友たちよ
限りない可能性に向かい
行こう、何も恐れることはない

一緒に歌おう、人生を泣き笑いながら
一緒に歌おう、行けるところまで行こう

近すぎて、そして

冷たい雨の晩 君に打ち明けて
今 テーブルの上 君の手紙がある
封を切る指が 少し震えている

他の娘と付き合ったりしてみた
ただ 君が好きだと気づいて、それからいくつも季節が過ぎた

近すぎて、そして近づけずにいた
そして離れずに、離れられずにいた
同じ夢を追った 仲間としてだけの距離に
もどかしさを感じて悩みながら

たくさんの友達 思い出の日々

心の記憶の中には いつでも君が映っていた

「友情を壊したくない」と
ありきたりの言葉を精一杯飲み込んで
涙に耐えられず...

近すぎて、そして近づけずにいた
そして離れずに、離れられずにいた
そしてこれからもずっと好きでいるまま
それからしばらく、ひとりであることを決めた

近すぎて、そして近づけずに終わった
そして離れずに、離れられずにいる
来週みんなで会う時は多分普通でいる
気にかけないでいいんだ
少しの敗北感と共にしながらも

君がいなければ

遣いもしない金を手に入れ
嬉しくもない地位につく
手放したくないものなどなく
捨てるものなど始めからなく

全てがどうってことないくらい
このまま死んだって惜しくない
あの頃とは違う

待つ人がいる今は
心に生まれた光が見える
どうか他にはないと言って

他には探さないと言って
居場所さえ僕にはない

きみがいなければ

食べることも寝ることも 充実感も快感も
この身体には伝わらないで
数えきれない程の情欲と戯れど 変わるわけじゃない
吐き出せる力さえ削り取られてゆくのに 投げやりになれた

心が有り余る 空虚な暮らし
このまま
何処かに流されてもかまわない
あの頃には戻れない

想う人がいる いつも
心に響いてる 声が染みて

かけがえのないもの
絶対 守りたいもの
大切にしたいもの
ああ 全てに叫びたい

「ありがとう」と

何ひとつ、そう何一つ
奪われるものなどなかった
生きてる価値がないくらい
生きる全てを賭けるものなど

君がいるよ
僕から奪わないで 心に宿る生きる全てを

かけがえのない 守りたい
大切にしたいもの
朽ち果てた屍になってしまう

君がいなければ

I'll take you, again

もし君がいなかったとしたら
僕の心は荒みきっていた

僕の希望にいつも君がいて
君は僕の真実だった

自由に向かって歩いていたあの頃
何もうまくいかなくて
悪魔のいる牢屋の中に閉じ込められて

そんな辛い日々さえ きっと笑えるように

君への想い 永遠の想い
持ち続ける大切なものだから
いつか立派になるよ
君を迎えに行くよ

君ともう一度やり直すために

その涙すら忘れてしまった
苦しすぎたせいなのかな
いつか辛そうにしていたことに
気が付かなかったのが悪いよね

This time is lust time.

I'll take you, again

愛があるから 想いがあるから
今でも僕は少しずつでも頑張れている

それは僕の信念で一縷の望みなんだ
君への愛は変わらずに

嵐の日々は いつしか過ぎ去り
どんな事にも立ち向かえるように
どうか信じて待っていてほしいんだ
必ずきみを
迎えに行くよ

君への想い 永遠の想い
持ち続ける大切なものだから
今度は僕が君を笑顔にさせるから
後少し待ってて欲しい
I'll take you, again

晩秋岬

一瞬の夕暮れ追いかけて 錆びた国道を歩きだす
君の影絵を踏みながら
思うように点かないライター

吹きさらしの浜辺さらわれて
その指先は遠くて
強い北風に 見えなくなりそうで... ah

これが恋と 想い焦がれ
けれどもくすぶったままで今でも
燃え上がらず 青白く光る
何で煮え切らないのだろう
缶コーヒーが 手のひらの中で
甘い味と 苦い味とで冷めていくばかりだった
そして次のバスまで待っている 晩秋岬

一瞬の夢叶えたくて
日常を置き去りにしたけど
君の横顔はこの現実を見て
どこか遠い目をしてた

波間に差し込んだ淡い光に
わずかに眠った君って
かすかな残り香までを
残し去っていった...ah

何が愛と 立ち止まって
いつでもくすぶったままで今でも
燃えることなく 消えそうに
何て寒そうにしているのだろう
気まぐれで 付けたしたような
くちびるに残したものは何？
次のバス待つ間までの 晩秋岬

吹きさらしの浜辺にさらわれて
来たれり春は消えて遠し
強い北風に 君を探しても...ah

こんな愛と 笑ったって
涙も夜には凍りそうになってる
単純な理屈じゃ 語れやしない
そんなすまない気持ちでしょう
甘い味か 苦い味か
悪戯に口づけたくちびるに残したものは何？
そして次のバスふたつの影絵 晩秋岬

Signpost

ただ、僕らは疲れきった
これは戦いと言えたのだろうか
何もできず時は経って苦しんでいる

世界に僕らが手を差し伸べれば
僕らが出来ずにいた事は過去になるんだ

歌は強さを誇り、強さを選ぶ
それは簡単じゃない事も知っている
フェアじゃないけど立ち上がろう
信念を保ち、信頼を得よう

それが生きるための signpost

留まらないで、ただ前を向く
僕らについてきてくれないだろうか
共に助け合い、共に手を取り合って、僕らはここに立てる

背を向けて、悲劇がたえないのならば
諦めずにひたすら立ち向かうだろう

この歌に誇りと、その強さを
世の中の不条理さえ覆すために
何故フェアじゃないのか立ち上がろう
信念を失くすな、信頼を糧に
孤独よりもずっといいだろう？

この歌に誇りを胸に 強さを目指す
それが簡単じゃないことを知っていても
運命（さだめ）が立ちほだかろうと立ち上がる
それが生き残る signpost

僕らは歌に誇りを、心に強さを
何故簡単じゃないか
知っていたとしても
あくなき挑戦をやめたりしない
信念を胸に 信頼を共に

それこそ生きるって signpost

Shadow of gold

この世で見る最後の夢はどこに辿りつくの
迷子になりそうな予感も秘めてわからないの

穏やかな日差しにすら ただ焦がれていく...

日毎に長くなる星空に 想いが揺れる so feel
悲しみさえ跪く夜に 孤独が進化して 眠れぬ瞼に
隠されていく

時はやがて 叶はずの恋に
長い影作り 太陽は照らし出す
oh yes 口づけた空 永遠に
刺さる光線 二人だけの宝に
太陽よ沈むことなかれ このままで
ずっとひとつの影作り 黄金色 (ゴールド)

この世でそう最後と決めた夢はああいつも
心と心で繋ぎあって 偉大な涙 流す

切なさが時に鍵をかけても同じ...

日毎に長くなる星空に 想いよ届け so feel
吐息が白く漏れていく夜に 孤独さえ麻痺して 眠れない心に
もっと fall in love

get it on 深く強い恋だと
長い影作り 太陽は照らし出す
oh yes 抱きしめた冬の空 永遠に
get it on 二人だけの愛に
太陽よ沈むことなかれ このままで
そっとひとつの影になり 黄金色 (ゴールド)

get it on 叶うだろう恋に
長い影描き 太陽よ照らし出せ
oh yes 口づけた空 永遠に
get it on 傷口もいつか
時に滲み 太陽に沈んで消えるだろう
愛は ひとつの影作り 黄金色 (ゴールド)

Ride out

Ride out...

Everybody ride out...

にっちもさっちもいかない景気で雨より金を降らして欲しくて
成功者には欺瞞の目つき 誰もが
ウワサのあの娘は百戦錬磨 次々男をモノにしていく
冷たい視線で悪態つくよ 誰かが

恨みなのか 妬みなのか そんなことどうでもいいはずなのさ
浮ついた足元気づけば 難しいことじゃない

仕事はあったらあったでラッキー サビ残してでも文句言えない
ストレスの下敷きにされてペラペラ 誰もが

偽物の欲は捨てて お似合いの暮らしをするだけなのさ
指を差して道を定めたら 前に進め

ずっとずっと針さえ歪んだ厳しい時代 傷ついた口元かみしめて
それでもやっていけるとわかるはず 己の中に火を焚きつけて
wow... You can ride out

オカネで買えると思ってマセンカ？ 本当の大切知ってイマスカ？
名もない宝で ride out

woo.,,justify satisfy

woo.,,justify satisfy

恨みとか そう妬みとか そんなものが必要なんじゃない
偽物の欲は捨てて 慎ましく進め

ずっとずっと針さえ狂った厳しい時代 傷口塞いで癒したら
これから出直すことだって出来る 己の中に息吹き込んで
wow... You can ride out

オサツばかり気にしてマセンカ？ 頭を少し冷やしてミマセンカ？
冷静になれたら ride out

Ride out...

Everybody ride out...

Ultimate

Do you love me? I wanna love you Let's get!

Do you love me? I wanna love you Do it!

意味ありげに近づかれる 俗欲はお断りだよ
本当の相手と 極めたい wow... ultimate
勘違いはやめてくれよ 投げつけた覚えもないよ
一生の相手と 歩むんだ wow... ultimate

そう最初は誰だって 小さくかよわく生を受け
大きくなるのに必要な愛情
いつかは誰かを好きになり 星に願いをかける程
経験ばかりじゃ足りない愛情

Yes, I'm an expert lover.

いつもきみにもっと愛されたい kiss を交わしながら 喘ぐよ
ラビリンスは果てなく広く ずっと奥まで
いつもきみをもっと愛してたい 繰り返している 囁きを
一度と決めたなら究極的に Ultimate love

Do you love me? I wanna love you Let's get!

時に本能が理性を上回ったことがあっても
過ちに気づいたら 懺悔しろ wow...ultimate

キズがつくのはその心 愛し愛され育めば
転んで擦り切れることもある 痛みが
夜に寂しく泣いたって 信じるものがありさえすれば
涙の出口はその胸に あるだろう？

Yes, It's shaking tune!

夢をきみともっと膨らませて 破裂しちゃうほど 叫ぶよ
明日の数は続いてゆく ずっと先まで
夢の世界をもっと味わい尽くして 広がるベッドも 心地よく
きみだけと決めたなら究極的に Ultimate dream

いつもきみにもっと愛されたい kiss を交わしながら 喘ぐよ
ラビリンスは樂園に変わる 旅をしようよ
いつもきみをもっと愛してたい 繰り返している 囁きを
一生分と決めたから 究極的に Ultimate love

Do you love me? I wanna love you Let's get!

Do you love me? I wanna love you Do it!...

陽の高く射す方へ

疲れてあお向けに見つめてる天井
顔を覆えばあなたの横顔
息をすることさえも辛くなった時
浮かぶのは涙と哀

もう少しでいいんだ いい加減わかってるんだ
ひとりじゃないこと 痛いほどに

せせら笑い 後ろから浴びたって
胸を張ればいい 勇気を手にして
ここでしゃんと起き上がろう
日差しを浴びて地に根を張って
あなたもこの空の下生きている だから
陽の高く射す方へ fly

月の満ち欠けに似たような闇が
心覆い隠して...But

顔を上げれば 周りを見渡せば
思いつめること何もない

あざ笑いに 刺されたとしても
流す血はない 信念を固めて
あなたの笑顔土曜の朝に
また触れられる どんな時も
あたしは炎燃やして生きてくよ だから
陽の高く射す方へ fly

...たとえ全てを失う事になったとしても...oh

せせら笑い 後ろから浴びたって
胸を張ればいい 勇気を手にして

ここでしゃんと起き上がろう
他人に動かされる 他人の人生じゃない

あざ笑いに 刺されたとしても
流す血はない 信念を固めて
犯罪じゃない 生き道だろう
愛する人に また逢えるだろう

誰しも炎を燃やして生きてるよ だから
陽の高く射す方へ fly

オールライト

今年の初めに誓いをたてました
もっともときみと親密になりますようになんて Ah 神様
寒い日に 決まって巻いてくる茶色のマフラー
肩をすべり落ちていくから思わずクビ締めちゃうんだよ

誰かを好きになる度 きみとくらべてる
きっと初めからそう きみだけ見てれば
幸せは増えたのでしょうか? ah my down

ちょこっとカールしてる前髪も きりっとしている眉も
無論好きだけど まだ言ってない
つかず離れず Keep your distance オールライト

なんできみはそんなにつれないの
だって家まであと10分走ったらもっとランデブー

誰かが言うほど ロマンティックじゃない
きっと今ならそうあと5センチくらい
その唇が近かったら ah break down

ゴツすぎる指先も センスのないネクタイも
みんな許すけど 気に止めたい
きみの目を惹くほどの Girl になるまでレッツファイト

きみは多分強がり 固いくらい意地っ張り
本音の表現力を磨いて yeah 照れてるの？

柔らかいその頬も 眼鏡の奥の瞳も
いつも見てたい 言わないけど
つかず離れずってこれでも苦労してんだ

ちょこっとカールしてる前髪も きりっとしている眉も
全部好きだけど 口に出さない
きみが YES ならオーライハッピー
もっと強く抱きしめてよ
沢山の思い出ありったけ詰めて
もっと激しく鮮やかに
幸せのゴールまで走りましょう オールライト

この愛を離さないで

形のない想いの 形が知りたくて
無性にその心をいたぶりたくなる

ふと言葉の棘を あなたの胸に突き刺して
その血に真実を 問いたくなるほどに

この愛を離さないで
あなたを想い想われる中で
この身体がひきちぎれても
互いを 癒し合う...

これ以上後ろ 振り向いても何も
残ってやしないよ 苦しみや痛みの他には

もうしがらみを捨てて 本気で向かい合って
あたし達 助け合いながら生きるよ

この愛を離さないで
あたしは想い想われる中で
この身体がひきちぎれても
互いの手 重ね合う...

ああ、わかっているの
何も 言わなくても
あなたは全てを知ってる...だから

この愛を離さないで
二人の通い合う気持ちの中で
この身体がひきちぎれても
互いを 求め合うよ...

Dreaming

変わらないね
その声、話し方とか 仕草とかは
変わったことといえば
すっばり覆われて 覗けないその胸のなか

バスに揺られ 手を重ね そっと指を撫でて
きみの望む明日なんて
今はまだ いらない
I'm in dreaming

きみは確かに
その肩に あたしの頭乗せたね
時には強く
時には優しく
愛してるのはきみだけだよ

目を閉じて 窓にもたれ 何を感じている？
この辺りの 国道走って
逢いに来ていたよね
like dreaming

きみのために きみに逢いに ここにいる

この匂いに くるまれて きみを感じている
絡まる腕が 懐かしくて
悲しいくらいに
like dreaming

目を閉じて 抱きしめたくて 泣きたいくらいに
握り返した 手を握って
このままでいたい
I'm in dreaming...

棘と涙

生ぬるい街中の風を束ねて歩く
仮面をかぶったピエロになって
雑踏に佇んで

聳え立つビルの群れ
片隅で薔薇の棘を刺して
悪戯に微笑んでる
涙は 君へさ迷って

幻想や現実には さいなまれながら

壊れてゆく世界から
貼りつけられた世界から
血にまみれ逃げ出す我よ
埋もれかけたこの愛を救って
もがいて 君を想って
この命が 平伏す前に...

朝の光と君の声が
少しずつ傷を塞ぐ
枯れてしまった花びらよ
貴方は何を想う
ちぎられた茎から滴る雫

はちきれそうな叫びを殺し
炎の中をかきわけけるような
幻覚に襲われる我よ
焼けるような太陽に眩んで
東の空 君を想って
安らぎをも得られない 月の涙

ゆがんだ汚れ 突き破り
いばらの森をかきわけながら
孤独を恐れる我よ

埋もれかけたこの愛を救って
もがいて 君を想って
終幕を知らない大地へ行きたくて
研がれた棘に 零れ落ちる涙

想いによせて

歪まれた時と運命に誘われて
繋いだ手はそのままで
つかの間と知っても
その夢に躊躇わず 墜ちる

きっときっと私を見ていない君を
ずっとずっと愛し続けても構わない
全て幻となっても

心の中にある本は捨てられず
ページを継ぎ足して
最後に見た 昨夜の君の寝顔を
追憶と色褪せた情景に収める

きっときっと再び絡まないと悟っても
ずっとずっとこの愛に絡まり続けて
どうしてどうして忘れなくちゃならない？
いつか忘れる日まで

ずっとずっとこの君の温もりを絶え間なく
まるでまるで過去と今と未来を迷子のように
何度も何度も君の名前を叫んで泣きながら
ずっとずっとさ迷い続けている心が・・・

いつか想い尽きる日まで

Thereason～存在理由～

交わした kiss で震えていた唇 甘い君の香りだね
多分ウブでしょ 多分初めてでしょ
その腕どこかぎこちないよ

そんな君がどっかで 酔ったイキオイで

例えば同僚の女の子の誘惑で
裏通りの HOTEL 連れ込まれたとか
起きたらどうやって受け止めりゃいい？

未だに君とはヤッてない
熱い肌と肌の溶け合い
もちろんそれは 全てじゃない
未だに君とは やや曖昧
ココロの異性交際 肝心なこと 聞かせてよ
君にとってあたしは何さ
The reason for being

ロマンチックだねとか プラトニックですねとか
劇的とか聞こえばっかはいいいけど
そんな単純じゃない 順調でもない 言葉で恋をくくらないで

野性は必然 理性は当然 土台固めて いざベットの上
ああ、妄想はやめよう 実際のところ
かなり君に似つかわしくない

未だに君とはヤッてない
汗ばむ肌と肌の触れ合い
一夜じゃ恋は決め手がない
未だに君とは やや曖昧
ウツクしく純愛 必要なこと 教えてよ
君にとってあたしは何さ
The reason for being

未だに君とはヤッてない
熱い肌と肌の溶け合い
もちろんそれは 全てじゃない
未だに君とは やや曖昧
ココロの異性交際 肝心なこと 聞かせてよ
君にとってあたしは何さ
The reason for being

郷愁

嗚呼、どうにもならなくなって あの町を飛び出して
もうすぐ また冬になる、ねえ どうしてる？
そう あれきり君とも 会ってない
君に言われたヒトコトは 今も夢の中 ぐるぐる廻ってる

また春が来るように やがて氷も 溶けるのかな
君との距離を 阻んでいた壁
暖かな南風が吹く日には

嗚呼、失ったものが余りにも 多いような気がして
ひとりでいることが最近多いよ
そう あのとき君に伝えたかったことは
山ほどあったけど 何一つ言葉に出来なくて

また春が来たときに 真新しい 緑が生まれ
きっとお互い振り返らずに 生きるのがいちばんいい
それがいい...

君の町から 流れてくる河
この町にも 雨上がりには
君が見てるのと同じ虹の橋が架かる

また春がきたときに 真新しい 緑が生まれ
郷愁が あの冬を包んだ

また春が来るように 時間はいつも 静かに進む
時の中で もがいていた 我的郷愁よ いざさらば

暖かな南風が吹く日には

Feathers

フェンス越しに薄れてゆく現実
遠のいて行く 悪戯な記憶
その声も 眼鏡の奥の瞳も
傍で響いて よどんで 潤んでいる
yesterday...

この痛みは 君をまた知る度に
増して行く 凍りつく記憶
深い傷痕 ナイフで切りつけられ
飛び立てず 広がらず
墜ちてゆく feathers

古い時計の鎖に捲かれたまま
針は突き刺さるように 黄昏を刻む

教えて 何故苦しんでいた
知らない 真実を知りたい
今でも 終わることはなく
けれど羽は折れたまま

何もかもが蘇る早春の昼下がり
君が忘れた幻想は まだ揺れている

教えて 何故離れていった
本当の 真実を知りたい
今でも 君はこの胸で
笑顔 こぼれている

鳥は この大地を舞い
空は 透き通る程青く
君の 清らかさを増す
けれど羽は墜ちてゆく

伝わらないラブ・ソング

雪溶けの小路に 白く重なるように
軒先 木蓮の花が咲いてた

君と迎えられなかった春が もうすぐそこまで 来ているみたい
二人の幻 覆う花びらよ

君のためなら 何でも出来ると言った
果たせなかった約束を沢山交わしてきたけれど

君のためにはもうこの歌は歌えないよ
肌と肌で 伝わらないラブ・ソング

久しぶりに会った君は 髪を短く切って
こぎれいな服を着て 少し大人になって

「お揃いに買ったシャツを 引っ張り出して着てきたよ」
そう言った私は まだ少し幼い

あの頃毎日のように 乗っていた車
横顔を見てる 指も震えている今は

君のためにはもうこの歌は歌えないよ
早く早く 季節が進むほど

終わりを伝えたのは 私の方なのに
今ももう一度 伝えたいラブ・ソング

もしも何かに くじけ つまづいた時に
君を見守る天使になりたい

澄んだ空に向かって この歌を届けよう
君がいつしか 弾いてたラブ・ソング
こみあげた切なさを 流れる雲に投げよう
そしてもう一度 思いを託して
今も大好きな 君へのラブ・ソング...

思い出の夜

今夜も星が出てる
けど故郷の夜空は もっと綺麗に澄み渡ってた
二十歳になっても 足を泥んこにした僕は
ここにはもういない それにあの頃の僕は
どンドン記憶からうすれて 列車がホームから遠ざかるように

思い出の夜がある
家族や友達と紡いだ日々を
彼女と過ごした部屋のことも
あいつとやりあって別れたことも
たまにふと思い出して 忘れないだろう

昔のことを煙草をくゆらせながら
振り返って語る僕は どこか遠い眼をしていた
ここにはもういない そんなあの頃の僕は
あれから始まった旅立ちに 不安や希望や夢を描いていた
ただのBOY

思い出の夜がある
過去や未来やそして今でも
人の優しさを知ったことも
人の醜さを知ったことも
たまにふと思い出した たくさんの夜

やりとげよう 何か 出来ると思った事を

ずっと続けられる事を
こんなやり方でもやっていけるなら
これから始まった旅立ちに 不安や希望や夢を描いてた
いまのBOY

思い出の夜を作ろう
過去や未来やそして今でも
暖かな気持ちとか やりきれない想いとか
たまにふと思い出せる たくさんの夜を...

bye bye to our lives

ゆがんだ曲線 ひび割れた鏡
床に一筋 赤い陽炎
君の全てを テーブルに置いて
合鍵に good luck 今さよなら告げるよ

部屋に差し込む午後の光は
ふたりの終わりを 風に伝えたよ
そよぐ緑の葉の音でさえ
時を戻しも進ませもしない

一千一夜共に過ごすのを 夢見てたのに
朝も夜も優しい Kiss は なかったよね wow...

bye bye to our lives
あっさりと幕を下ろすのも小憎たらしい
ごめんねと言う言葉も考えるほど
君に多分必要なかった
遂にさよなら
あたしの君に

部屋に差し込む午後の光は

目を閉じれば まだ浮かぶ残像...

幾年幾夜共に居られると 信じてたのに
愛想尽かしたのはまるで 君の方だよね wow...

bye bye to our love
その戸惑い笑いの顔さえも小憎たらしい
扉の前で最後振り向いても もう逢う事もない
これでさよなら

bye bye to our lives
思い出なんていないから引きちぎってよ
ごめんねと言う言葉も君にはそう必要じゃないみたい
やっとなら
君のあたしに

ゆがんだ曲線 ひび割れた景色
床に一筋 赤い陽炎
君の全てを テーブルに置いた
合鍵に good luck 今さよなら告げるよ

IF

君からケイタイ鳴らなくなって ひとりぼっちになった
何も怖くなかったはずの心が かき乱されていった

記憶をたぐり寄せる程に 思い出ばかりが褪せてゆく

君が青春を過ごしたキャンパスは 新しくなった
昔の面影もないくらい この街も変わった

向かい合っていたテーブルの 目の前に君はもういない
眠れぬ夜に月を見て 何度君の名を呼んだだろう

ひとりでいたいと決めたのも 距離を置こうと決めたのも
勝手に振り回されたのも 全ては自分の意思のもと

また君の笑顔に逢えるなら
相変わらずの君と居れるなら
手を繋いで夢にもしおちてゆけるのなら...

君が青春を送ったキャンパスに 足を運んでみた
何気なしに何処かへ行きたくて 西行きのバスに乗った

何も怖くなかったはずの心が かき乱されていった
停留所で待ってた君の後ろで 風が廻っていた

昔の面影もないくらい この街も変わった
夕方 人波溢れるなかに 君を探してた...

いつか君の笑顔に逢えるなら
髪を撫でてくれた君が戻るなら

手を繋いで温もりもし感じられるのなら...

Lie to me

桜散らしの雨上がりの朝に
針のむしろで目が覚めた気分さ
だけど身体中が刺されて痛いのに
どうしても起き上がれないんだ

君のことはたいてい追いかけてきたし
死ぬと言われたらノドすら刺しただろう
だけどあたしの気持ちを察していても
君は何も言ったりしないんだもの

愛すればの苦痛に 疲れ果ててしまったよ
嫌いになられた方が楽だから
こう言って、「もう会いたくない」と
lie to me

君は少年から大人になって
日毎に成長していったけれど
君を想って何年も経った今
あたしは何を誇れるのだろう

切なさの苦痛に 壊れてしまいそうだよ
断ち切って楽になれるのなら
こう言って、「もう話したくない」と
lie to me

ほどほどの距離感で 君は手を伸ばすけれど
その無慈悲な優しさすら
あたしには痛くてたまらないよ

愛すればの苦痛に 疲れ果ててしまったよ
枯れるまで泣き尽くしてもいいから
こう言って、「もう会わない」と
lie to me...

THROUGH THE NIGHT

切り貼りした人生に なんか付け足したくなっただろう
もがいてばかりの生き方に 夢中になれるものはあったっけ

DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
与えてくれないなら 奪ってしまえ

DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
欲ばかりがつのってきて どうにもなんないよ

静かになんないか？
今世間じゃ信仰って毒がまわってるらしい
すがってしまうのも人ならば
すがられて騙すのも人の性

DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
道化師にでもなって 夜にあざ笑え
DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
闇ばかりでっかくて こらえきれないよ

日が落ちたら孤独を恐れる
TVはいつもエンドレスなNEWS
太陽も大地見下ろしておてあげだよ
ねえ、このごろ神様ってどうしてるんだろう？

No need to worry
お前を呼んじゃいないし呼んだりもしないから
だがこっちを見て冷やかすのもやめてくれよ
僕らの道はただまっすぐ前を捉えるだけだ
これは人生の清算ってやつなんだ

DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
ノイズで世間を大きく揺さぶってやれ
DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
なんか転がってないか転がるだけさ

DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
与えてくれないなら 奪ってしまえ
DANCE THROUGH THE NIGHT
BREAK THROUGH THE NIGHT
闇ばかりでも なんか いいこと転がってる...

Rainy train

あてのない ころろ かえれない ころろ
抱き合ったふたりに 降り出した雨
哀しい程 熱で身体は震えて
首すじにキミの 吐息感じてるよ

飛べる羽なんて無い
時は待ってくれない
峠の向こうに何かあるか解らない
手を繋いで 乗るよ Rainy Train

ぶらさげた ころろ...
今受け止めることの出来るのは
キミの腕の中だけなんだ

儂く舞い散るか
灰の様に尽き果てるか
この夢が碎ける事を知っても
しがらみ 捨てて 走る Rainy Train

何がいけなくて正しいなんて知らないよ
ただじっとこうして寄り添っていようか
窓を叩く激しい雨に怯えることなく
失う為に ふたりいる訳じゃないよ...

ちぎれそうな糸みたいなふたりの絆を
誰が愛って呼ぶんだろう？
まるではじめから、終わりを感じてるようだ
太陽が覗いたら、その眩しさに消えるよ
Rainy Train

麗しきなり戦

もし見えないものに邪魔されて
道を踏み外したら
心が泣くほど悔しいもんじゃないのかい

もし二度目もなく次場もなく引き下がれなければ
闘うしかない 諦められない
Make it count

食いしばって飛び掛かれ
制御不能で捨て身でも
それは美しき戦

ドブに悔しさをすてるような
泣き方をしないための
これは美しき戦なんだ

さあその招待状を受け取れよ

この掛け金ってえらくお高いんだぜ
その夢はあまりにシュールでリアル過ぎるから

でもここは別世界でもない
別の日でもない
今でしかないから
立ち上がって熱くなって
Make it count

用意はいいか、さあ行くぞ
痛みも無いし火傷もしない
それは美しき戦

例え炎の中にぶち壊れていくとしても

これは美しき戦なんだ

欲求の塊ってやつを見に来いよ

用意はいいか、さあ行くぞ
痛みも無いし火傷もしない
それは美しき戦

例え炎の中にぶち壊れていくとしても
これは美しき戦なんだ
欲求の塊ってやつを見に来いよ

ドブに悔しさをすてるような
泣き方をしないための
これは美しき戦なんだ

さあその招待状を受け取れよ

The Call of the Winds

神様ってだいたいどうするか知ってるんだ
(逃げるな諦めずに折れるな)
世界が堕ちていくこんな時どうすればいいべきかって
(目を覚ませ起き上がれ立ち上がれ)
僕らはまだ生きるための術を掘り続けている

さあ目をしっかり開けて
希望を持って
僕らは地球を歩きながら
気の向くまま風音を聴くがいい

あらゆる道に行く先に
最後のジャッジが待っている

風の声がもたらす希望が注ぐ

ひとつひとつ、橋が崩れ落ちていった
(どうしたらどうすれば何をすれば)
ダイヤモンドにひかる場所も失われた
(目を覚ませ起き上がれ立ち上がれ)
僕らが明日の全てを奪われてないと思うなら

その声で叫べよ
その希望よ
僕らは地球を歩き続ける
風の声のする方へ yeah.yeah

導かれその先に
審判の日は待っている
それは確かな夜明けとなるだろう

さあ目をしっかり開けて
希望を持って
僕らは地球を歩きながら
気の向くまま風のを聴くがいい

導かれその先に
審判の日は待っている
それは確かな夜明けとなるだろう

in summer rain

さよならが来る列車を待って
ホームに立っている 雨の中
線路を濡らす露はまだ乾きそうにない 水たまり
見えなくなるまであなたをずっと追いかけるこの視線

さよならが来る列車を待つて
時間が止まればいい in summer rain

涙が出る程笑ったね あの夜 あの場所で
あなたの瞳をずっと見つめながら・・・

私の愛私の心は 気か付けば いつからか
いつも揺れ動いている あなたへ向かって 夏の雨
移ろう景色のなかで私は雫に流されて
こぼれそうな憂いを抱いて踊る心 夏の中で

さよならを運ぶ列車がやがて
ホームに滑り込む in summer rain
短い夢覚めさせる ベルが鳴っている 耳の奥

真夏の光線は遠く 濡れた指先 冷たくて

さよならの言葉を交わして
いま離れていく in summer rain
私の心は いつからか私の愛は はっきりと
レールの上走っていく あなたへ向かう 夏の中で

分厚い雲の下 何もかもが流れても
あなたへの想いを抱いて離さない in summer rain

部屋に辿り着き 遅い雷鳴が響き
窓を閉める時
ああ何て恋は切なさに満ちて 身を引き裂かれるの
その隙間を風が吹き抜ける・・・

私の愛私の心は 気か付けば いつからか
いつも揺れ動いている あなたへ向かって 夏の雨
移ろう景色のなかで私は雫に流されて
こぼれそうな憂いを抱いて踊る心 夏の中で

まだ降りしきる夏雨の中
まだ断ちきれない思いの中
この気持ちを貫いていく
ホームに佇みかみしめている

永遠のサヨナラ

時に君は何も選べない 時に君は言葉を失くす
何かあるなら話してよ
君の世界ってグレーなのかい

ぼくらはそろそろ決めなくちゃならない
涙に代わるものすらなくね
壊して歩きたくなどないのに
君は僕から離れていくんだね

hey goodbye
サヨナラって永遠だけど
永遠なんてのは
何処にもないのかもしれない

何も意味を成しえない
残酷だけが僕の味方
僕らを縛る鉄線を切るならば
互いを自由にするしかないんだ

hey forever
永遠のサヨナラ
いくつものさよならで
世界は成り立ってるんだ

またひとつ
涙さえもう流れない
あといくつ
こんな気分味わうのだろう
hey goodbye
サヨナラって永遠だけど
永遠なんてのは

何処にもないのかもしれない

YUNA KAMINAMI IBARA

著 神波 由那

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
